学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
東京都豊島区目白
1丁目5番1号
電話(986)0221内線607
発行・編集責任者
明比　順一郎
年間200円

能力主義化狙う教育改革

教育改革の世論づくりに余念はない（共同提供）

中曽根の提唱する「教育改革」の真の狙いはなにか。現在国民からは教育荒廃が指摘され、その是正が望まれている。しかし中曽根の主張する改革の方向性をはっきりと把握しない限り、その改革に賛同することはできない。折しも、改革を審議するための臨時教育審議会設置法案が国会に上程されている。会期延長後も空転が続き、法案の成立は難航しているが、改革実現への一歩は確実に踏み出されている。中曽根の意向が打ち出された様々な報告書から、臨教審の真の狙いがどこにあるかを探ってゆきたい。

教育改革の動き

中曽根は就任直後の施政方針演説で、教育改革への意欲を表明した。その後、中曽根の教育改革への動きは、八三年六月に設置された諮問機関「文化と教育に関する懇談会」（いわゆる「懇談会」）の提言に基づいて、教育改革の具体的な審議を行う「臨教審」の設置へと進んだ。

中曽根は、「戦後教育の総決算」を唱え、教育改革に強い意欲を示してきた。

「臨教審―中曽根」を探る

「愛国心」強要する現場教育

道徳教育の強化

選別化教育

進む教員管理

国家主義教育

原理研勧誘に注意

ソフト化する勧誘方法

ソフト化する原理ビラ（合格発表当日）

今年度新歓期間には、過去例を見ない規模で原理研の勧誘が行なわれた。原理研は学生同盟、他大学においても学生自治活動を行なう教育団体である。特に五月は、その勧誘が活発になる時期であり、あいまいなアンケート調査、ビデオ鑑賞勧誘等、特に注意が必要である。

原理学生は去る、二月二四日、三日に開催された「カルト問題」についてのシンポジウムにおいて、全国的な統一四一五名にのぼる勧誘を行なった。彼日一二六日本学会総発表期間「CARPフェスティバル」の動員に対する原理学生は、他大学学生を含め四月七日に開催される「カ日間に延べ四一五名にのぼる原理学生は、他大学学生

編集部員募集

書評

進む教育管理、生徒の規格化

鎌田　慧著『教育工場の子どもたち』

岩波書店
1,400円

明窓浄机

明日を担う貴男を
先輩文化人が応援します。
男子学生専用
菊池寛記念会館 目白台学生ハイム
後援 文藝春秋　協賛 旺文社
地下鉄(有楽町線)
護国寺駅より徒歩5分
手ぶらで来て、その日から生活できます（日常生活の諸設備完備）●専用レストラン・読書室付、カフェテリア・菊池寛記念室 併設 ● 毎日の食事（朝・昼・夕）の食事OK
学習院大学から徒歩15分
生前、次代を担う青年たちに援助を惜しまなかった作家 菊池寛。(菊池寛記念会館)は、この故人の遺志を絶やすまいと、遺族ならびに、(株)文芸春秋が記念事業の一環として設立されたものです。
〒171 東京都豊島区雑司が谷1-32-5　☎03-983-3271(代)

灰谷健次郎　定価980円　文芸春秋
兎の眼
世代を超えて不滅のロングセラー
灰谷健次郎　定価980円　文芸春秋
太陽の子
あたらしく大学の門をくぐられたあなた。もうお読みになりましたか？
教育と生きる意味を深くみつめた書。この本との出会いがあなたを変える！
理論社
出版案内進呈 〒162 東京都新宿区若松町15-6

寺山修司のすすめ

イメージの練金術師 美とエロスと肉体と ——追悼一周年特集

寺山修司が死んだのは、ちょうど一年前の五月四日のことである。生前、詩、短歌、小説、演劇、競馬評論……と幅広く活動していた彼であったが、その才能——特に演劇分野——はむしろ海外で評判になることが多かった。死後一年経ち、漸く日本各地で彼の作品群が受け入れられてきているが、彼の才能の多彩さ深淵さを知る人はまだまだ少ない。今回彼が生涯に渡って抱いていたテーマやモチーフを紹介することで、一人でも多くの人が寺山修司の本なり映画なりに興味を覚えてくれることを期待する。

少年期——青年期

寺山修司は一九三五年十二月十日、青森県三沢市で生まれた。父親は戦争中アルコール中毒で死亡。そのため母ハツは近くの米軍キャンプでホステスとして働くようになり、寺山修司はわずか十歳で自炊による一人暮しを余儀なくされた。彼はその淋しさや母恋しさなどを詩にしてノートに書きだすが、このあたりが彼の人生の原点と言えるのではないかと思う。

彼の短歌集や自叙伝風の小説を紐とくと、母にテーマをおいたものが圧倒的に多い。厚化粧をし、豊頬手術をし、日増しに若々しく派手になっていく母への恋慕と憎悪。その母も、しばらくして蒸発。彼が後々〝母捨て〟にこだわるようになったのは、この時母に捨てられたという負い目が根底で作用していたことは否めないだろう。

その後、彼は劇場を経営する親戚に引きとられ、中学、高校時代を楽屋裏で過ごす。そこで多くの映画を観たり、ドサ回り劇団の人達と寝起きを共にするうちに、彼は自然と映画や芝居の世界に没入していった。

活躍が始まるのは高校時代である。文学部に参加していた彼は青森県高校文学部会議を組織し、また全国の高校生に呼びかけて十代の俳句雑誌「牧羊神」を創刊する。これは十二号で廃刊になるが、参加者は百人を超え、彼はこの活動の中で中村草田男や山口誓子らと知遇を得た。

この頃から短歌を多く作るようになるが、早稲田大学入学後、中城ふみ子に刺激された彼は「チエホフ祭」と題する五十首を作り、第二回短歌研究新人賞を受賞した。

あまりに早いデビューだったため、一部の知識人には俗っぽい印象を与えてしまったが、彼の評判は徐々に世間に拡がっていった。ところが突然のネフローゼ発病のため、その後約三年の間絶対安静の入院生活を強いられる。この時期に彼は膨大な量の書物を読みあさり、また当時早大で同級生であった現シナリオライターの山田太一らと往復書簡をやりとりしていた。彼は大学を中退し、病気が小康状態になると新宿歌舞伎町（ここで現在のポルノ産業溢れる状況を想像してはいけない）に入りびたり、ヤクザやゴロツキ連中の人生観や経験談に影響されていく。

退院後はシナリオライターとして再び評判になり、横尾忠則・東田多加・九條映子らと昭和四十二年、演劇実験室「天井桟敷」を設立する。

これにより本格的な演劇活動に入るが、その実験的要素を多くとり入れた映画や舞台には各国から絶賛されるに及び彼の名は世界的に有名になっていった。

〝家〟からの解放

彼は劇団活動の中で多くの実験劇や映画を手がけたが、その中でも映画に関しては世界各地で絶賛され、数々の賞を受賞した。今回はテーマに類似性のある二作品を取り上げ、端的に彼の内面を浮かびあがらせてみることにする。

『田園に死す』——一九七四年度芸術奨励新人賞。パース映画祭、ベナルマデナ映画祭審査員特別賞受賞——この作品は寺山修司の歌集『田園に死す』をもとに書き下ろしたオリジナル脚本で、主人公の青年に寺山修司自身の原体験を投影させた、極めて自叙伝的色彩の強い長編映画である。

舞台は青森県下北半島、大鴉の群れ集まる恐山。そしてそのふもとの村に住む一人の少年が主人公である。思春期にさしかかり母親を疎ましく思い始めた彼は、ちょうど隣家に嫁として買われてきた美しい人妻と駆け落ちをする。

するとここで一旦物語は中断し、スクリーンは劇中劇ならぬ映画中映画の風景となる。つまり今までの物語は「青年（少年と同一人物）の過去＝記憶の映画化」だというわけである。しかし夜遅く家に帰った青年は、そこに二十年前の自分が立っているのを見た途端、彼の自伝映画のすべては美化された虚構であることに気付き、少年と共に二十年前の故郷へとタイムスリップする。そこで青年は昔果し得なかった願望——母殺し——を実行しようとするが、再び母の世界に取りこまれてしまい、結局殺せないままで終わってしまう。

これは「記憶の修正」を試みる実験映画である。誰でも〝あの時こうしていれば〟と思ったことがあるだろう。青年の場合それは〝家〟〝母〟などの血族的呪縛からの解放であった。

〝家〟のシンボルとして提示されている柱時計は、家族を支配する時間は一つであるということを保証するものである。それに対して腕時計は個人の時間の象徴であるため母親は少年が腕時計を身につけることを決して許さない。腕時計を所有するということは即ち、家という運命共同体から離れた個人の運命を所有することであるからである。

映画の中頃で青年は「もし自分の三代前の祖母を殺したら、果して自分という存在はなくなるのだろうか？」と悩む。寺山修司は青年の記憶の修正の試みを通して青年の、また寺山修司自身のアイデンティティの在所を追求したかったのではないだろうか。

『草迷宮』——一九七八年制作。ヨーロッパの有名な二人の監督の作品と併せてパリ市内で公開され、そのうち最も高い評価を受けた作品である——これは泉鏡花の短編小説『草迷宮』を原作とするもので、少年が実在しない手毬唄の忘れた歌詞を尋ねて旅をするうちに、官能の世界に迷い込んでいく部分のシナリオ化である。

この作品の軸となっているのは〝母の息子に対するエゴイズム〟と〝息子の母への回帰性〟である。『田園に死す』に登場する母親と同じく、この母親も息子が家の外の世界に興味を持つことを極端に嫌う。あらゆる外界から息子を遠ざけ、いつしか母親は、〝母の愛〟という名の束縛で息子をはがいじめにしようとするのだ。

そしてその母が死ぬと、今度は青年が昔母から聞いた手毬唄（手毬＝母親の乳房の換喩）を求めて旅に出る。母の幻影から自由になろうともがいても、所詮子供は母との絆を完全に捨てきることは不可能なのだ。

短い作品であるが、めまぐるしく押し寄せる超現実的光景や、その凄まじい美しさには思わず緊張してしまう。

映画「草迷宮」より

もう一つの現実へ

寺山修司の世界——詩・短歌・映画・舞台など——の共通項としてあげられるのは、やはり〝美しさ〟であると思う。研ぎ澄まされた感性によって創られたものは、たとえひどく残酷なシーンであっても観る者に〝美〟を感じさせることができる。彼は常識というものを嫌悪し、誰もが当り前のこととして受け入れてしまうことを、ことごとく疑う感性を死ぬまで持ち続けた人だった。例えば、何年か前路上に突然現れた〝止まれ〟のマークを、誰でも最初は面白がりながらも次第に何とも思わなくなっていくが、寺山修司は何年経ってもそのマークの存在を不思議がっていた人であった。

彼の創作したものには、しばしば奇型と呼ばれる人々が登場する。彼らは非日常を象徴するものとして存在すると同時に〝見世物〟という積極的手段で社会に存在しているのである。

細かく日常を観察すれば、非日常などいくらでも転がっているようなものだが、日本人は一般に、前衛芸術とか非日常の世界を避けたがる傾向があるらしい。そのため、生前の寺山修司が「そんなに理解しにくい作品ではない」と訴え続けていたにもかかわらず、「一般受けしない」という理由で多くの作品が長い間公開されずにいたこと、そしてそれらが日の目を見るためには、彼自身の死という話題性を利用せねばならなかったことは非常に悲しむべきことである。しかし考えようでは、彼は死を代償にして自分の作品を世に送り出したとも言えるだろう。

彼の死後静かなブームとなっている現在、彼の世界を少しでも知ってみようとすることはそんなに難しくはないはずだ。彼の世界にのめり込むと、きっとそれまでの常識や諸観念を根本から解体されるのを感じるだろう。しかし、それを恐れることはない。なぜなら彼の虚構は現実と無関係に逃避的に独立したものではなく、現実を挑発し、現実に影響を及ぼすものとして考えられたものであるからだ。読者の世界は寺山修司に触れることによって一度解体されて、その後全く新しい感性によって再構成される。

真に人間的に成長し、自分自身の価値観を作りあげるためには、思いきって別の世界へ足を踏み入れてみることが必要である。寺山修司は充分期待に応えてくれる相手である。

〔著書一部紹介〕
『家出のすすめ』
『書を捨てよ、町へ出よう』
『花嫁化鳥』
『誰か故郷を思わざる』
『両手いっぱいの言葉』
『田園に死す』（歌集）

学内雑誌評

相互理解の場目指す ——自由投稿中心の編集—— 「タマテバコ」創刊

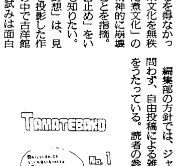
キャンパスにミニコミ誌が乱立した時期があったことは記憶に新しい。本学においては、二年前まで「少年学習院」が活躍していた。「少年学習院」は、内容的に市販の情報誌に近づくことにより読者獲得を目指した。そのため、学生の独自性が生み出し得ずに廃刊。以来、学内にはポスト「少年学習院」を待ち望む空気があった。

今回紹介するのは、今年二月に創刊されたミニコミ誌「タマテバコ」である。装丁は活版印刷の八ページ立て、発行部数五〇部の小冊子だ。発行先の「新集団」は、吉川睦彦君（哲二）を中心に、哲科生と教養演習（担当・飯坂教授）受講生が昨年結成。

「タマテバコ」は硬軟織り込んだミニコミ誌である。巻頭を飾るのは「Ω」君の小論「精神的崩壊の核心・最近思わざるを得なかったこと」である。欧米文化を無秩序に導入した「ごった煮文化」の中に生きる日本人が精神的に崩壊の途をたどっていることを指摘。内的必然性崩壊の「歯止め」をいかに持つかについても知りたい。佐藤君の「三丁目の幻想」は、見慣れた古洋館に自己を投影した作品である。時の流れの中で古洋館と自己を同一視する試みは面白い。「映画を見る少女」では、映画館で隣り合わせた少女のしぐさに覚えた可愛らしさをエッセイ風につづっており、読んでいてホクホクしてくる。

編集部の方針では、ジャンルは問わず、自由投稿による雑誌作成をうたっている。読者の参加により、相互交流の場を目指すというわけだ。また、「創刊の辞」ではその方向性を「社会問題の明確化」としている。価値基準の崩壊が叫ばれる社会状況の中にある時、「タマテバコ」の出現は必然的と言えるかもしれない。しかし一方において学内での問題意識の欠如感は強く、共通の問題意識を生み出す基盤は壊滅的と言える。「タマテバコ」は、後期九月に二号の発刊となるそうだ。どんな内容で学生を獲得し、本学の「相互理解の場」を実現してくれるか楽しみにしたい。

（周瑞市）



「タマテバコ」創刊号

デスクの片隅

[illegible]

学内フラッシュ

電算機科目再編

本年度カリキュラムは、昨年度新設された計算機センター（南五号館）の本格的な稼働開始によって、一般教養一科目を含む三科目の情報処理科目が新たに設けられた。これによって四月から、経済学部二、政治学科一、一般教養二合計五つの授業が開講。初級コースに約千人の履習が届けられた。

本学の情報処理教育を実質的に方向づけると思われる情報処理教育委員会（法・経・文・理各教授一名、センター二名）主任島野卓爾教授（教務部長）は、情報処理科学基礎教育を盛り込んだ教育内容にするとしている。それは専門学校のような実践処理技術教育でなく、情報、言語の概念構成、及び言語の相互理解システムの原理修得を重視しそれによって各電算機で異なる技術、プログラムの変化に対応できると説明。また今年は第一年目であり、今後試行錯誤を繰り返し四、五年で充実させ、「学生の要望があれば」とした上で科目増を示唆している。

現在、産業界に大変動をもたらしている情報革命は、一層強力に私たちに電算処理技術教育の要請をもたらしているが、電算技術導入で発生している社会、労働問題にも目を向ける姿勢が必要なのではないだろうか。

風物詩☆第十一回目白音

第十一回目白音楽祭（主催・学生相談所）は、五月二三日から六月九日まで、仮講及び仮講裏の特設ステージにおいて開催された。出演は七サークル・延べ一八〇人と、昨年と同規模。

期間中は小雨の一日を除き天候に恵まれ、連日二百人近い観客を集めた。特に今回は音楽サークルのリーダーによる「リーダーバンド」が観客の目を引いたようだ。目白音に対する観客の反応では、「静かな大学だから、たまにはこんなお祭りがあってもいいと思う」、「場所が狭いから立ち停って見るよりも、通り過ぎる時に覗くっていう感じです」などの声が聞かれた。十一回を数え目白音は、学生間に一つの風物誌として定着しつつあるようだ。

第一回から聞いている集会所売店のおじさんは「学内が明るくなるネ。何だかみんな晴ればれとしていて、これが終わるともう夏っていう季節感がある」と語っている。一方、成文堂のおにいさんは「音はみんないい音だしてる感じがします。でもボーカルがちょっと……」と、なかなかきびしい意見。

四月から準備に取りかかっている学相は「一部のハプニングを除き、まずまずの成功」と満足気。また「これからは一般学生の参加の道を広げ、開放していきたい」とも語っている。

天候に恵まれた目白音（6／7ラテ研）

硬庭女子準優勝 一部復帰目白押し

春のリーグ戦が終って、硬式庭球部女子の一部準優勝、アーチェリー部男子、ソフトボール部女子、フェンシング部女子が一部へ昇格した。

四月一日～十三日に朝日生命グランドで行われた硬庭女子の一部リーグでの成績は四勝一敗。優勝の青山学院大以外実力伯仲の同リーグにおいて堂々の準優勝であった。初戦に勝てたことが大きい、とキャプテンは語ったが、実力伯仲というプレッシャーにうち克った彼女たちの精神面をたたえたい。

今月中に決まるインカレ出場者が、今年は期待される。現在は四大戦（六月）、夏の個人戦（八月）を目指して練習している。ほこりにまみれたテニス・ウェアでキャンパスをうろついていても白い目でみないでほしい、とは彼女たちの切なる要望であった。

アーチェリー男子の一部復帰は十二年ぶりである。昨年二部に昇格し、圧倒的な強さで全勝優勝を果し、入れ替え戦（五・十三、東京農工大）に臨んだ。AB、二ブロック制で、四校の争いとなったわけだが、ここでも他をよせつけず圧勝し、青学大の一部残留とともに本学の一部昇格が決定したわけだ。

ここ数年間の実力向上については、高校時代の経験者の増加と、各自の練習に対する意識のめざめで練習密度が濃くなったためとみている。入れ替え戦や数々の試合内容から一部でも充分やっていけそうとたのもしい言葉が返ってきた。

ソフトボール女子は半年ぶりの一部復帰であるが、一部は体育系大学が五校を占め、常に入れ替え戦をくり返している。そして今回の対戦校国士館大は長年のライバルだ。彼女たちも二部では全勝して入れ替え戦（五・二十、本学北グランド）に臨んだわけだ [illegible]

準優勝メダルをうける 硬式庭球部選手

お好み焼・もんじゃ焼

コンパ、クラス会はお座敷にて100名様迄承ります

関西本場　最高の味

お一人様 1500円

お好み焼
焼そば
鉄板焼
ビール一本付
（席料なし）

お好み焼 一番星

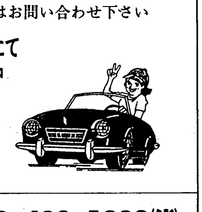
目白駅前　コマースビル 4F
981－4443

運転免許

短期間の合宿教習で免許が取れます!!
夏休みの予約受付中
日程、料金等はお問い合わせ下さい

蓁々会売店にて予約受付中

⦿実地免除
⦿普通免許 卒業まで最短 17日間
⦿運転免許ローン歓迎（6～24回払）



学習院大学指定　（お問い合せ先：蓁々会売店）
千葉県公認校グループ免許センター　03-438-1900(代)
〒105 東京都港区新橋3－21－2　江藤ビル4F〈新橋烏森口より1分〉